



海外

稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

われわれが生活しているUAEの首都アブダビの名前の由来、および都市計画について紹介します。

まずは名前の由来。日本語では「アブダビ」と1語ですが、アラビア語では「アブ」と「ダビ」の二つの言葉の組み合わせになります。「ダビ」は「鹿」、「アブ」は「～のお父さん」という意味で、アブダビを日本語に直訳すると「鹿のお父さん」になります。アブダビの市街地は、アラビア湾に浮かぶ島の一つで、人間が住む前に野生の鹿が繁殖していたため、「鹿のお父さん(アブダビ)」という地名になったといわれています。

次に都市計画。アブダビの道路は、複雑怪奇なドバイの道路と違い、非常に単純明快です。グーグルアースなどでアブダビの市街地を拡大して見てください。条と坊を組み合わせた古都京都の区画によく似ています。その理由は、アブダビ市の都市計画が1960年代に土木技術アドバイザーとしてアブダビ政府で勤務なさっていた日本人建築家、高橋克彦氏の設計によるものだからです。

日本人が設計した街、鹿のお父さんの街、アブダビの紹介でした。

百武良幸(1980年理工)

会員からのメッセージ

2021年3月現在のUAEのコロナ対応について紹介します。UAEは連邦制のため首長国により対応が異なりますが、私の住むアブダビ首長国では感染防止に向けてさまざまな対策がなされています。PCR検査は病院やドライブスルーで気軽に受けられ、私も週1回検査しています。検査費用もお手頃な約2,000円で、結果は1日以内にSNSで通知されます。また、政府の主導で既に全国民の60パーセント以上がワクチンを接種しており、これは世界第2位の接種率です。そのほか、外出時のマスク着用、ソーシャル・ディスタンスの確保、映画館など各種施設への人数制限は当然として、アブダビ、ドバイ間には検問が設けられ、通過には陰性証明が必須です。さらに海外からのアブダビ入国者には位置

管理ガジェット(写真)が強制装着され、10日間の自宅待機中に外出すれば拘束され、罰金約150万円(5万AED)が科されます。少し不便で窮屈さはありますが、諸規制のおかげでコロナ禍でも安心

自宅待機中に装着する位置管理ガジェット

して生活できています。

岩本隆一郎(1984年理工、86年工研修)

エネルギーに満ちているアブダビ。3年間当地で暮らして感じたことです。まずは、文字通りの「エネルギー」。アブダビは世界有数の産油国ですが、同時に太陽光、水素やアンモニアなど、新しいエネルギーの一大発信地です。そして、何より「人のエネルギー」。ここは自国民の割合は15パーセント程度で、世界中から多くの人が集まり活気にあふれて、Diversity & Inclusionを体現しています。誰もが子どもやお年寄りに優しく、非常に近代化が進んだ都市の中に、人の温かさが息づいています。

満倉 武(2008年文学)

当地に赴任して2年がたちました。アブダビの夏は50度に達する灼熱ですが、秋冬は20～30度程度で過ごしやすい地域です。この季節はスポーツに快適で、ゴルフ・サッカー・テニスなど、日本人の活動も盛んです。また、多国籍な地域であることもアブダビの特徴の一つです。私は学生時代に打ち込んだフィールドホッケーを通じて、異国の地でも多くの国の方々と交流を深めることができ、学生時代の経験に感謝しています。

安田大河(2014年政経)

アブダビ稲門会について



砂漠で見る天の川

2013年10月29日に設立されたアブダビ稲門会の現在の会員数は、設立時とほぼ同数の30人ほどです。設立時はアブダビの主要産業が石油・ガスの開採生産であったことが反映され、理系出身者の会員数が文系の2倍強でした。現在は、産業の多角化を目指す、アラブ首長国連邦(UAE)政府の政策の影響を受けて、理系と文系出身者の割合はちょうど半々となっています。

コロナ禍のため現在は休止中ですが、主要な活動は、忘年会、毎年春に開催される早稲田・慶應・一橋・上智との4大学懇親会でのクイズ大会があります。また、砂漠の真ん中で四季折々の天体を見る天体観測会を不定期で開催しています。

百武良幸(1980年理工)

アブダビの魅力

アラブ首長国連邦が中東諸国の一つだと聞くと、砂漠が一面に広がり、ラクダがいると想像する方もいれば、よく知られているドバイのように、高層ビルが立ち並んでいる光景を思い描く方もいるかと思います。アブダビは、ドバイほどではありませんが、高層ビルが立ち並び、近代化が進んでいる街です。

そんな中、アブダビの魅力の一つは砂漠でのアクティビティーです。四輪駆動車に乗って砂丘を疾走するデュンドライブ、ラクダに乗って砂漠の中を散策するキャメルライド、砂漠の中でのキャンプなど、さまざまなことが体験できます。稲門会の不定期行事である天体観測も忘れてはいけません。アブダビ市内から車で1時間半ほどで行ける砂漠の満天の星空は、われわれの心を清らかにしてくれます。

また、毎年F1が開催されているヤス・マリーナ・サーキットは週2回無料開放されていて、自転車、もしくはジョギングで周回することもできます。レーシングカーが走るサーキットのコースを気軽に周回できるなんて、世界中探してもどこにもないのではないのでしょうか。

下方憲昭(1999年理工、2001年工研修)



(上)朝焼けの中でラクダトレッキング
(下) F1サーキットでのサイクリング